

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572308690		
法人名	湯の越の里株式会社		
事業所名	グループホーム 湯の越の家(ユニット2)		
所在地	秋田県南秋田郡五城目町内川浅見内字後田125-5		
自己評価作成日	平成22年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成23年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温泉を利用したのリハビリ 食事の栄養バランス

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は四季折々の景観を楽しめる高台に建てられている。地域の中心部からはやや離れているものの、併設のデイサービス施設と合同でボランティアを受け入れることで、地域住民と交流する機会を作っている。また、事業所は散歩やドライブ、外食等全員が楽しめる取り組みを行ったり、地域行事に参加する等、外部との交流を積極的に取り入れた支援に努めている。利用者は併設のデイサービス施設での温泉入浴を楽しみとしており、特に冬場は何よりの癒しとなっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を重視している。		理念については職員採用時に説明し、話し合う機会を持っている。理念は事業所内の目のつく所、数箇所に掲示している他、業務日誌に貼り付け、職員が折りに触れ理念を意識し実践できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大事にしている。		事業所は地域の中心からやや離れた高台にある。地域の方とは、散歩の時にあいさつを交わしているほか、町内行事の夏祭りや産業祭に参加したり、踊りやフラダンス等の地域のボランティアを招き併設のデイサービス施設と合同で楽しむ等、触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域とのつながりを大事にしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に努めている。		町の地域包括支援センター、社会福祉協議会、地区民生委員、A棟・B棟家族代表各1名、センター長、管理者が出席し年3～4回開催している。会議の内容は、事業所側の報告が主となっている。	より具体的な課題提起をしたり、悩みを聞いてもらったり、町や地区との情報交換の場とする等の工夫により、メンバーとの関わりを深め、意見や情報をサービスの向上に活かしていくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との協力体制。		地域包括支援センター職員に、運営推進会議を通じて、具体的な事業所の実情や取り組みを伝えている。また、町の相談窓口での相談事項についても随時対応してもらうなど、良好な関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	できるだけ鍵をかけず自由な生活環境作りを心掛けているが、見守り重視のため一時的に施錠することがある。		日中は玄関に鍵をかけずに2名の職員が見守っている。一人で外出する利用者には、職員が付き添い安全確保に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待は行わないという事を全職員認識している。			

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際に契約書の説明を行い理解していただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。	玄関には面会者記録簿と一緒に意見箱を設置しており、事業所以外の相談窓口も掲示されている。管理者や職員は、家族等の面会時等機会あるごとに、意見や要望等を出してもらえるように声かけをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のカンファレンスで意見・提案を聞いている。	毎月1回カンファレンスを定期的実施している。各担当者からの報告(買い物・受診・家族への連絡・献立等)や、職員から出された意見・提案について検討しており、気兼ねなく何でも話せる状況にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の決定。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	できるだけ同業者の交流を図るため、会議等に参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に言葉づけを心掛けて行き、安心して何でも話をできる雰囲気を作っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の訪問時には職員も積極的に声掛けし、意見を言ってもらえる関係作りに努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩の方々なので、若いころの経験などを聞いて生活に取り入れている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人を大切に思う御家族の気持ちを大事にして支援するようにしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思うようにできていない。	入居時、馴染みの人や場を聞き取りによって把握し、希望があれば家族と出かけている。面会者の受け入れについても事前に家族の希望や要望を伺い、家族の意向に沿った対応をしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で体操をしたり歌を歌ったりして仲間意識を作れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		時々連絡をして近況を聞いているが、時がたつにつれ遠のいてしまうのが現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		集団生活を基本としながら一人ひとりの個性を把握して、ご本人の生活リズムが継続できるように支援している。	利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めているが、病状の悪化により介護度が高くなる場合などは家族に都度説明し、できるだけ要望を聞きながら支援している。思いや意向の把握が困難な場合は、日常生活の中で表情を見ながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		時々若いころの話などを聞くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		人格を尊重して、言葉掛けに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		入居者やご家族とも相談しながら作成している。	3カ月に1回、担当者、本人、家族、関係者(医師等)の意見を聞きながら、職員全員でモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。その他、必要に応じて適宜見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		申し送りノートや個人ファイルの経過記録に具体的に記録して情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする				

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の力を利用。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を取っている。	希望に応じて、秋田市内の病院等、遠方の医療機関にも受診の付き添いの支援をしている。また、月2回協力医療機関の往診もあり、緊急時には併設サービス施設の看護師に相談することができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスの看護師に相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携体制。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	具体的に本人・家族等と話し合いを行っていないが、医療連携体制を行っているので今後取り組んでいきたい。	これまで看取りの支援を行ったケースはないが、医療機関との連携体制は出来ている。将来的に事業所が対応できる支援等をスタッフで話し合い、徐々に取り組んでいく方向で検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。	年2回、定期的に避難訓練を実施し、内1回は消防署の協力を得て設備点検や消火器の使い方等の訓練をしている。万が一に備えて地域の消防団に協力を依頼しており、連絡網の中にも位置付けられている。	

自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者全員に満遍なく声を掛けるよう努めている。 傾聴を大事にする。	管理者は、職員が利用者に傾聴の態度で接するよう指導しており、大切なことはカンファレンス等で全員に注意を促している。職員は、利用者のペースを大事にし、言葉かけなどに配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の洋服、外出時の洋服等をアドバイスしながら自分で決めていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活を基本にしながら本人の生活リズムを重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	言葉掛け・見守り・介助にて支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を取り入れ、地域の食材を利用した季節感のある献立を考えている。 利用者の方の能力に応じて準備・片づけをしている。	お昼はディサービスで調理した食事をいただき、朝夕は職員が利用者の希望を聞いたうえで、地元食材を使った季節感のある献立を立て、調理専門の職員が作っている。好みにより食事の配膳や食器拭きに参加する利用者もいる。職員は食卓にはつかず、当番で食事の見守りに力を入れている。	食事の際に、職員が目配り・気配りしながら利用者と一緒に食卓を囲むことで、より利用者が食事を楽しめるような雰囲気作りを工夫していくことが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食べる量・水分量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りで行い、その後介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用の利用者はいないため、声掛け・見守りにてトイレ誘導をしている。		排泄パターンを把握し、日中は全員がトイレで排泄できるように支援している。夜間は、目覚め等による歩行状態に配慮し、リハビリパンツやポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫のほかに下剤の服薬・管理。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一回曜日を決めている。入居者の希望をすべて取り入れることはできないが、極力応じている。		入浴は毎日可能であり、利用者は概ね1日おきに入浴している。また、利用者は、併設デイサービス施設での温泉入浴を楽しみにしている。入浴を好まない利用者には、薬塗布の声掛けや着替えに誘うなどの工夫をし、足浴や入浴が出来るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え夜間良眠できるよう働きかけている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を保管し確認できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性を把握し、得意なことを手伝ってもらったり、趣味を披露してもらったりする。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	季節ごとにドライブに外出したり、散歩をしていただいたり心がけているが、冬季間は難しい。		天気の良い日は歩行困難な方も全員外に出て散歩している。上小阿仁村や大湯村方面にドライブに出かけたり、外食も月1回、回転寿司やファミリーレストランに全員で出かけている。希望があれば買い物にも交替で出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より本人の自由になるお金を預かっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に事務所の電話を使用していただく。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と居間が同じ室内にあるため広い空間である。 空気清浄機の使用。掃除の徹底。	高い天窓からの採光による明るく広々とした居間兼食堂には全員が座れる大きなソファが配置されている。空気清浄機の使用や毎日の職員による除菌洗剤を使っての掃除が行き届いており、臭気もなく清潔感があり、利用者が心地よく過ごせる空間となっていることが確認できた。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	食卓のテーブル、椅子のほかにもソファを置いている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものや飾り物等を持ってきていただき、自由に使用してもらっている。	各居室はベット、タンス、クローゼットが備え付けられている。テレビやラジカセ、着替えや小物等は使い慣れたものが持ち込まれており、お位牌を大切にしている利用者もいる。本人が居心地良く過ごせる工夫をしていることが確認できた。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立生活の支援。			